長久保先輩

動機

長久保先輩は僕の憧れの先輩だ。僕が部活に入ったばかりのとき、わからない動きなどがたくさんあった僕は、とても困った。先輩に聞こうか、でも先輩の名前すらわからない。そんなときに声をかけてくれた。

僕が二年に上がって、部活は長久保先輩たちの代になった。先輩は前よりも活躍していてチームの中心だった。僕の憧れの的になった。学校生活のなか、部活のときでもいつも面白いことを言って笑わせてくれる。優しくて、面白くて、かっこいい、僕にとってそういう存在だ。だから僕は、長久保先輩のことを書きたいと思った。